



2026年1月期 第1四半期決算短信（日本基準）（連結）

2025年6月13日

上場会社名 株式会社 ナイガイ

上場取引所 東

コード番号 8013 URL <http://www.naigai.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 今泉 賢治

問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理部門担当

(氏名) 市原 聡

TEL 03-6230-1654

配当支払開始予定日 —

決算補足説明資料作成の有無 : 無

決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2026年1月期第1四半期の連結業績（2025年2月1日～2025年4月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年1月期第1四半期	2,797	△3.5	△209	—	△303	—	△314	—
2025年1月期第1四半期	2,899	△0.4	△104	—	△77	—	△86	—

(注) 包括利益 2026年1月期第1四半期 △694百万円 (—%) 2025年1月期第1四半期 158百万円 (790.8%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年1月期第1四半期	△38.90	—
2025年1月期第1四半期	△10.52	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年1月期第1四半期	11,257	5,814	51.6
2025年1月期	11,888	6,562	55.2

(参考) 自己資本 2026年1月期第1四半期 5,814百万円 2025年1月期 6,562百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年1月期	—	—	—	0.00	0.00
2026年1月期	—	—	—	—	—
2026年1月期 (予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年1月期の連結業績予想（2025年2月1日～2026年1月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
通期	13,500	2.6	100	74.5	150	△0.9	120	18.9

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2026年1月期1Q	8,217,281 株	2025年1月期	8,217,281 株
------------	-------------	----------	-------------

② 期末自己株式数

2026年1月期1Q	276,401 株	2025年1月期	68,434 株
------------	-----------	----------	----------

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

2026年1月期1Q	8,076,447 株	2025年1月期1Q	8,183,090 株
------------	-------------	------------	-------------

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は、今後、様々な要因によって予想値と異なる場合があります。業績予想に関しましては、添付資料3ページ、「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計方針の変更に関する注記)	8
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	8
(セグメント情報等の注記)	8
(重要な後発事象)	9
3. その他	9
継続企業の前提に関する重要事象等	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における我が国経済は、米国の政策運営や通商・外交方針を巡る不確実性の高まりを背景に、対中関係をはじめとする地政学リスクへの警戒感が継続しており、その影響から物価上昇や生活コストの増加による個人消費の抑制がみられるなど、依然として先行き不透明な状況が続いております。

衣料品業界においては、引き続き消費者の節約志向が根強く、価格訴求型商品の需要が高まる一方で、訪日外国人による消費の拡大基調には足踏みが見られ始めております。加えて、家計の防衛的な消費行動の一層の強まりや天候不順の影響を受け、春物商材の販売は総じて低調な立ち上がりとなりました。

こうした中、当社グループは、2025年2月3日に公表いたしました第6次中期経営計画「N-Challenge 2027」で掲げる2030年ビジョン「パーソナル・ソリューションカンパニー」の実現に向けて、事業ポートフォリオの最適化と収益基盤の再構築に取り組んでまいりました。具体的には、売場のプロデュース業化による百貨店での当社主導型売場の拡大に加え、直営店の店舗拡大に向けた地盤固め、レグEC事業における独自開発商品の展開やSNSを活用した販促活動による売上拡大、また量販店事業においてはパートナー企業との協業の深化を通じて、効率的な営業戦略を推進いたしました。

また、新たに国内外で人気の高い「ポケットモンスター」の紳士・婦人・子供靴下のライセンス契約により、2025年の秋冬商材より百貨店・直営店・専門店・EC販路等にて販売を開始いたします。今後も、「ドラえもん」や「サンリオキャラクター」に続くキャラクタービジネスの強化を引き続き推進してまいります。

その一方で、天候不順等の影響により春物商品の販売が苦戦したことに加え、円高に伴う為替差損（営業外費用91百万円）の計上等が収益を圧迫し、当第1四半期連結累計期間の売上高は2,797百万円（前年同四半期比3.5%減）、営業損失は209百万円（前年同四半期は104百万円の営業損失）、経常損失は303百万円（前年同四半期は77百万円の経常損失）、親会社株主に帰属する四半期純損失は314百万円（前年同四半期は86百万円の四半期純損失）となりました。

セグメント別の経営成績は以下のとおりです。

(卸売り事業)

卸売り事業につきましては、百貨店販路において他社協業を含む当社主導型運営売場の拡大によるシェア率向上に加え、売場のプロデュース化の推進に注力いたしました。量販店販路においては、大手得意先へのOEM・ODM対応を推進し、販路特性に合わせた商品開発を進めるとともに、パートナー企業との協業の深化に努めた結果、売上・営業利益ともに計画を上回る進捗となりました。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間の卸売り事業の売上高は2,231百万円（前年同四半期比6.1%減）、営業損失は222百万円（前年同四半期は81百万円の営業損失）となりました。

(小売り事業)

小売り事業につきましては、直営店販路においてインバウンド需要による入店客数の増加がみられ、竹下通り店では免税販売が売上に寄与し、計画を上回る進捗となりました。レグEC事業では、生成AIツールを活用したSNS販促の強化に加え、EC顧客向けに展開した独自開発商品の販売が好調に推移し、売上・営業利益ともに計画を上回りました。また、テレビ番組で「はかないくつした」が紹介されたことも売上に貢献いたしました。

バッグEC事業では、新たな顧客層の獲得を目的として、革製品以外（生地系）のバッグを取り扱うセレクトショップ「Tabinone」をオープンいたしました。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間の小売り事業の売上高は566百万円（前年同四半期比8.1%増）、営業利益は12百万円（前年同四半期は22百万円の営業損失）となりました。

（2）財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に対して631百万円減少し、11,257百万円となりました。流動資産では、商品及び製品が631百万円増加し、現金及び預金が180百万円、受取手形及び売掛金が494百万円減少しました。

負債は、前連結会計年度末に対して116百万円増加し、5,443百万円となりました。支払手形及び買掛金が145百万円、電子記録債務が338百万円増加し、繰延税金負債が151百万円減少しました。

純資産につきましては、親会社株主に帰属する四半期純損失314百万円の計上とその他の有価証券評価差額金の減少320百万円等により、前連結会計年度末に対して747百万円減少し、5,814百万円となりました。

この結果、自己資本比率は前連結会計年度末に対して3.6ポイント減少し、51.6%となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年1月期の連結業績予想につきましては、2025年3月14日に公表いたしました業績予想から変更はありません。業績予想の修正が必要と判断した場合には、その時点で速やかに公表いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年1月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年4月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,537	3,357
受取手形及び売掛金	2,427	1,933
商品及び製品	1,834	2,466
仕掛品	27	18
原材料及び貯蔵品	80	91
その他	642	522
貸倒引当金	△2	△1
流動資産合計	8,548	8,388
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	3	3
土地	99	94
その他（純額）	102	109
有形固定資産合計	205	207
無形固定資産	5	4
投資その他の資産		
投資有価証券	2,921	2,449
その他	214	214
貸倒引当金	△7	△7
投資その他の資産合計	3,128	2,657
固定資産合計	3,340	2,869
資産合計	11,888	11,257

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年1月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年4月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	537	683
電子記録債務	905	1,244
短期借入金	1,205	1,178
未払法人税等	19	11
賞与引当金	21	44
株主優待引当金	12	12
その他	922	749
流動負債合計	3,624	3,923
固定負債		
長期借入金	463	444
退職給付に係る負債	536	524
繰延税金負債	640	488
その他	62	62
固定負債合計	1,702	1,519
負債合計	5,326	5,443
純資産の部		
株主資本		
資本金	100	100
資本剰余金	5,284	5,284
利益剰余金	△517	△832
自己株式	△16	△70
株主資本合計	4,849	4,482
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,352	1,031
為替換算調整勘定	360	300
その他の包括利益累計額合計	1,712	1,332
純資産合計	6,562	5,814
負債純資産合計	11,888	11,257

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年2月1日 至 2024年4月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年2月1日 至 2025年4月30日)
売上高	2,899	2,797
売上原価	1,834	1,798
売上総利益	1,065	999
販売費及び一般管理費	1,169	1,208
営業損失(△)	△104	△209
営業外収益		
受取利息	0	1
為替差益	29	—
その他	0	1
営業外収益合計	31	3
営業外費用		
支払利息	3	4
為替差損	—	91
その他	1	0
営業外費用合計	4	97
経常損失(△)	△77	△303
特別損失		
減損損失	—	0
特別損失合計	—	0
税金等調整前四半期純損失(△)	△77	△304
法人税、住民税及び事業税	9	9
法人税等調整額	△0	0
法人税等合計	8	9
四半期純損失(△)	△86	△314
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△86	△314

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年2月1日 至 2024年4月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年2月1日 至 2025年4月30日)
四半期純損失(△)	△86	△314
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	211	△320
為替換算調整勘定	32	△59
その他の包括利益合計	244	△379
四半期包括利益	158	△694
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	158	△694

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更に関する注記)

(法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準等の適用)

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」(企業会計基準第27号2022年10月28日)、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号2022年10月28日)及び「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号2022年10月28日)を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年2月1日 至 2024年4月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年2月1日 至 2025年4月30日)
減価償却費	7百万円	8百万円

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2024年2月1日 至 2024年4月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	卸売り事業	小売り事業			
売上高					
外部顧客への売上高	2,375	523	2,899	—	2,899
セグメント間の内部売上高又は振替高	40	—	40	△40	—
計	2,416	523	2,940	△40	2,899
セグメント損失(△)	△81	△22	△104	—	△104

(注) 1. 調整額はセグメント間の取引消去であります。

2. セグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間（自 2025年2月1日 至 2025年4月30日）
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント		合計	調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	卸売り事業	小売り事業			
売上高					
外部顧客への売上高	2,231	566	2,797	—	2,797
セグメント間の内部売上高又は 振替高	67	—	67	△67	—
計	2,299	566	2,865	△67	2,797
セグメント利益又は損失（△）	△222	12	△209	—	△209

（注） 1．調整額はセグメント間の取引消去であります。

2．セグメント利益又は損失（△）は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

（重要な後発事象）

該当事項はありません。

3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、前連結会計年度において営業損益は2期連続で黒字となったものの、営業キャッシュ・フローは連続してマイナスを計上しております。従いまして、継続企業の前提に重要な疑義が生じさせる事象又は状況が引き続き存在していると認識しております。

このような状況を解消するために当社グループは、2025年2月3日に公表いたしました、第6次中期経営計画の着実な実行により、営業キャッシュ・フローの黒字化を計画していることから、現時点では当社グループにおいて、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないものと判断しております。

なお、資金面については、金融機関からの融資継続を含め手元資金は十分確保できており、財務面での安全性は確保できております。

以上のことから、現時点では当社グループにおいて継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないと判断しております